

林野庁

令和2年木質バイオマスエネルギー利用動向調査 《主要な指標の年別推移》

http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/mokusitu_biomass/index.html

令和3年12月27日公表の、令和元年「バイオマスエネルギー利用動向調査」のうち、主要な指標を抜き出して、事業所数及び木材チップの利用量の推移を、グラフ化し比較できるようにしたものです。

【注】

2018年の公表からチップ消費量等のうち一部の都道府県の数値が非公表になっています。これは、統計調査結果について、調査対象者数が2事業体以下の都道府県については、調査結果の秘密保護の観点から、当該結果を「x」表示とされているためです。また、この資料に関して林野庁へのお問合せはご遠慮ください。

一般社団法人 日本木質バイオマスエネルギー協会

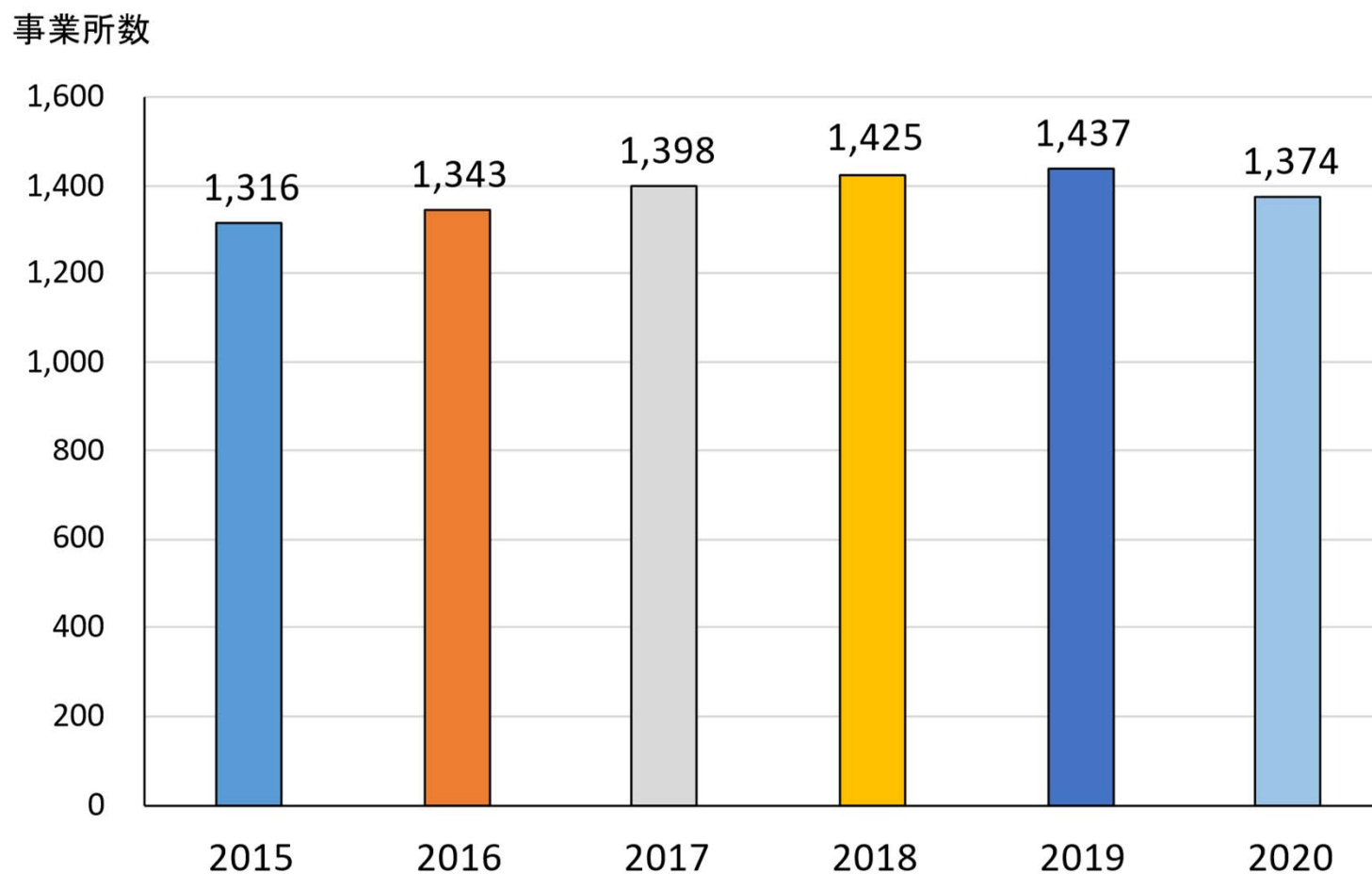
〒110-0016 東京都台東区台東3丁目12番5号 クラシックビル604

TEL : 03-5817-8491 FAX : 03-5817-8492

E-mail : mail@jwba.or.jp

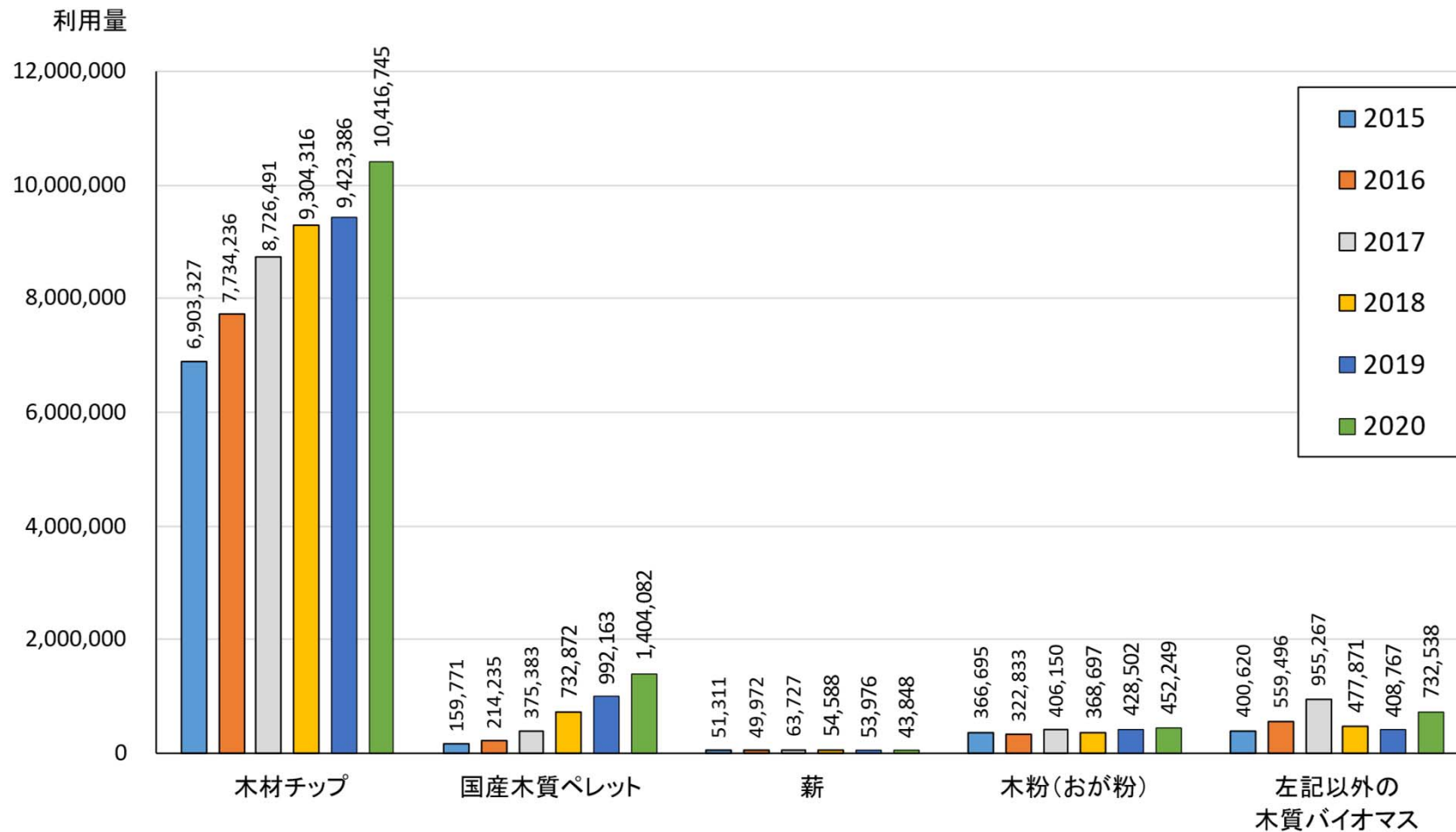
1. 木質バイオマスエネルギー利用事業所数の推移（全国）

- 令和2年（2020年）の木質バイオマスエネルギー利用事業所数は、1,374事業所で前年比4.4%の減少となっています。



2. 木質バイオマス利用量の推移（全国）

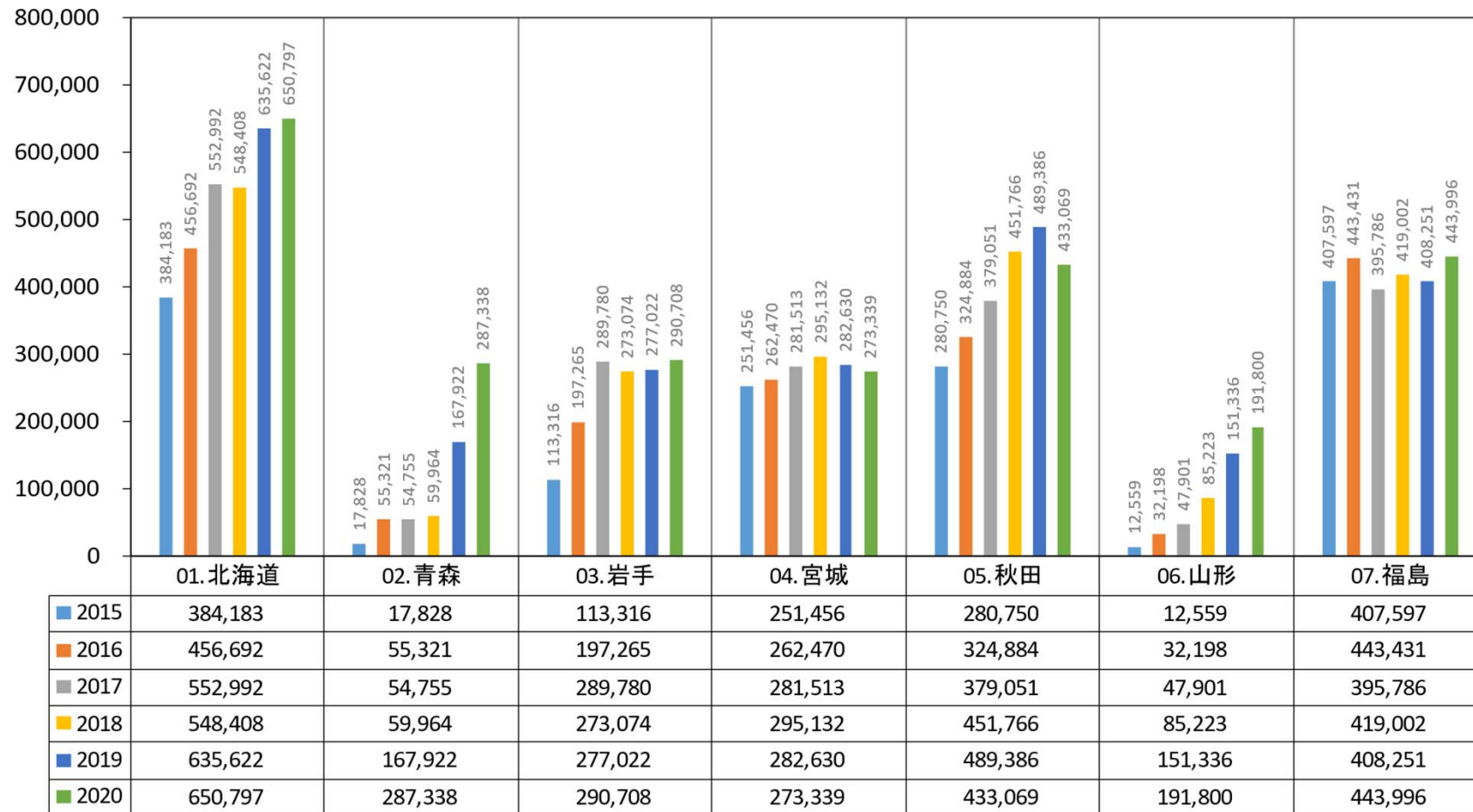
- 木質バイオマス利用量の推移を比較すると、木材チップ、木質ペレット、木粉、その他のバイオマスは増加し、薪が減少となっています。
※単位：木材チップは絶乾トン、木材チップ以外はトン



2-1. 木材チップ利用量の推移（北海道・東北地方）

- 「2. 木質バイオマス利用量の推移」のうち、木材チップの利用量を都道府県別に（北海道・東北）推移を示したのが以下の図です。

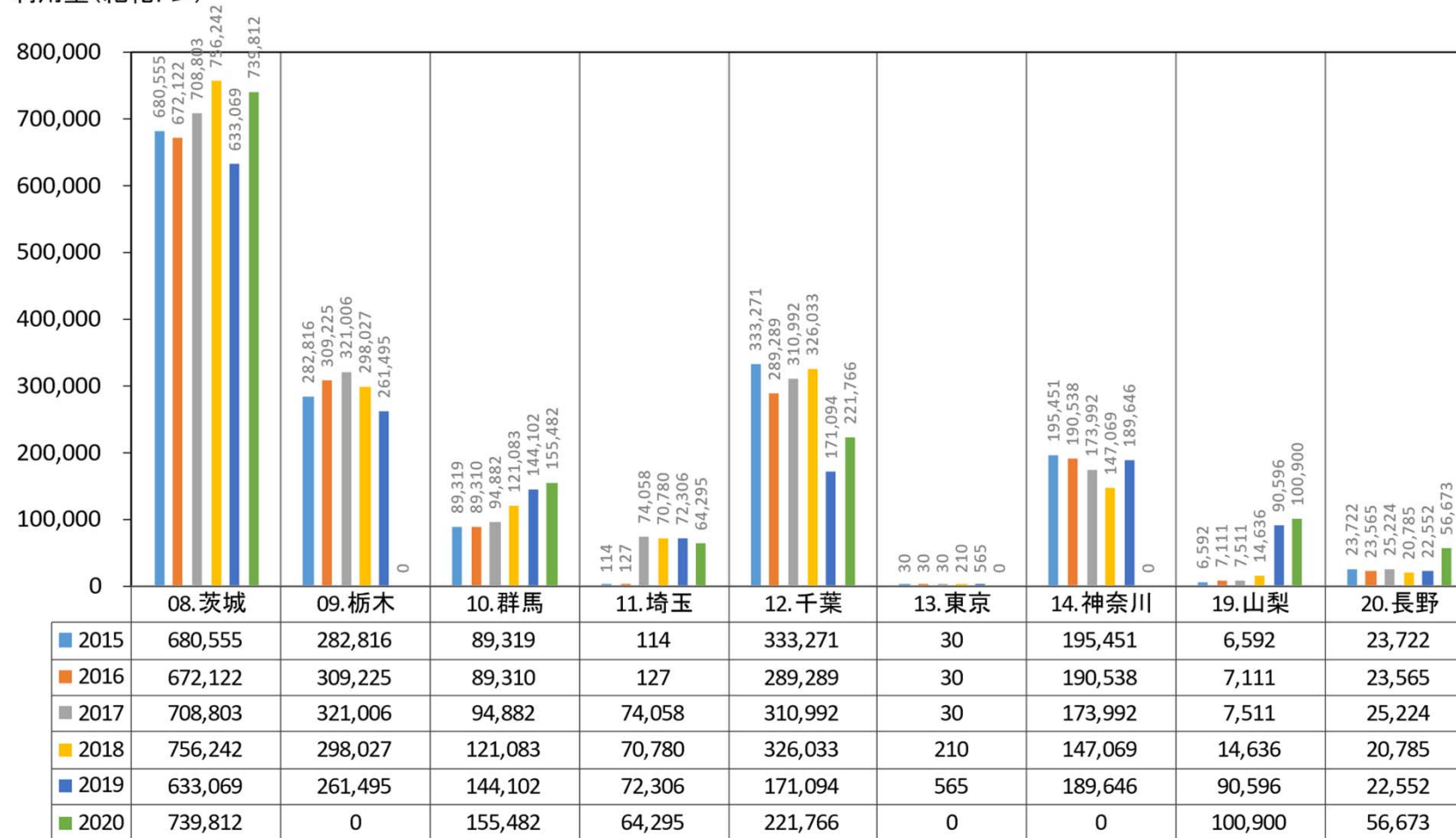
利用量(絶乾トン)



2-2. 木材チップ利用量の推移（関東甲信地方）

- 「2. 木質バイオマス利用量の推移」のうち、木材チップの利用量を都道府県別に（関東甲信）推移を示したのが以下の図です。※栃木県、東京都、神奈川県は2020年から公表対象外になっています。

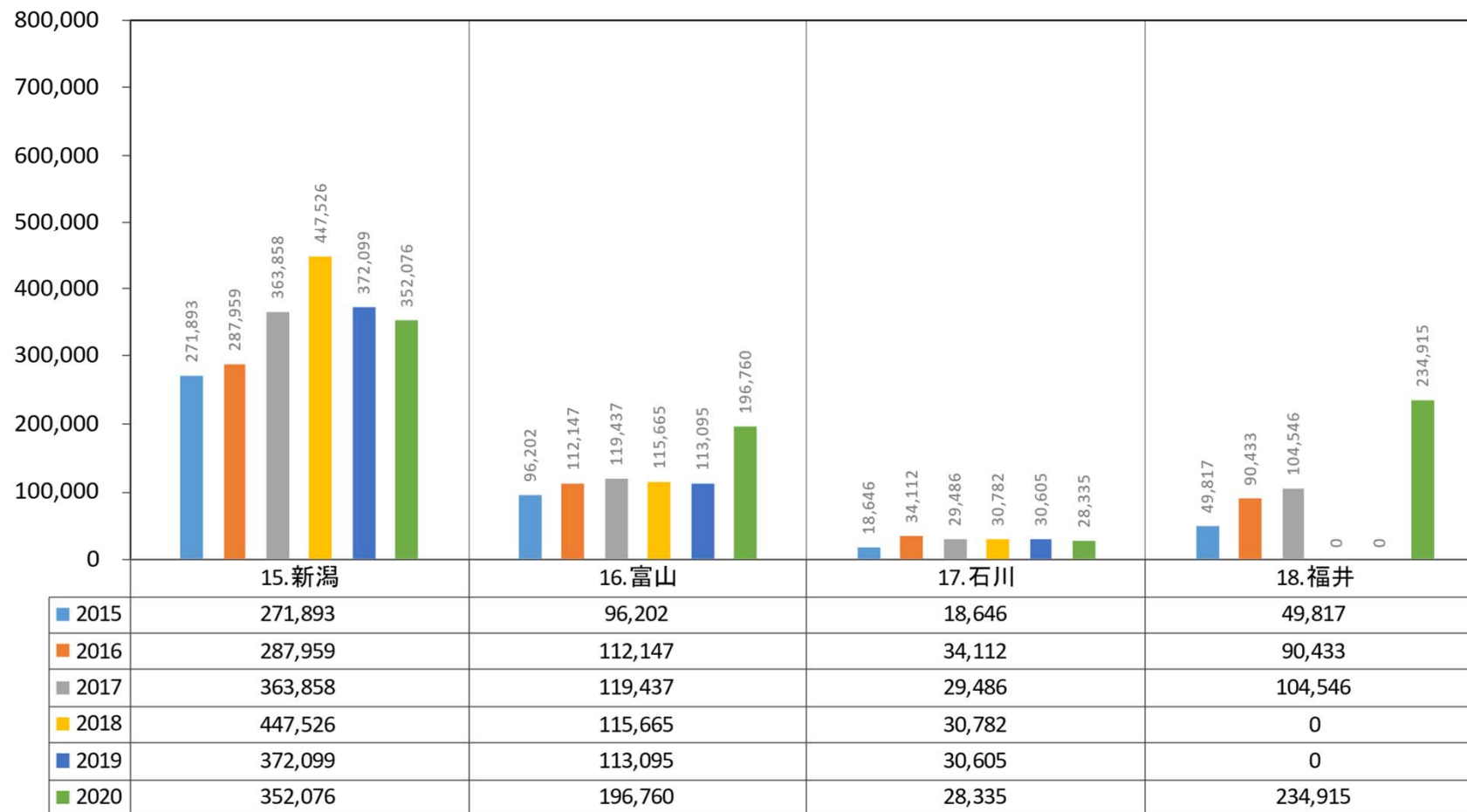
利用量(絶乾トン)



2-3. 木材チップ利用量の推移（北陸地方）

- 「2. 木質バイオマス利用量の推移」のうち、木材チップの利用量を都道府県別に（北陸）推移を示したのが以下の図です。※福井県は、2018年、2019年が公表対象外になっています。

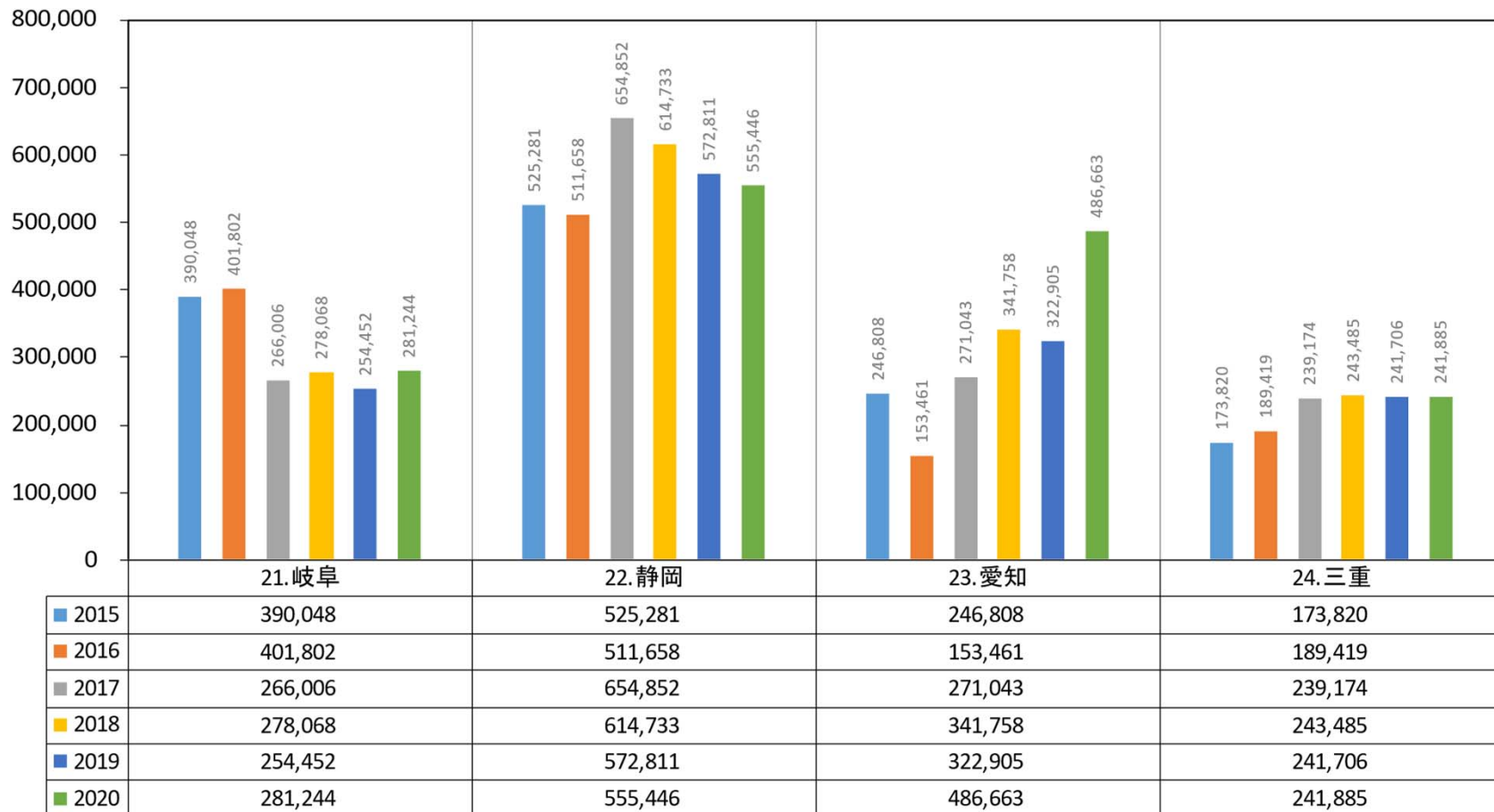
利用量（絶乾トン）



2-4. 木材チップ利用量の推移（中部地方）

- 「2. 木質バイオマス利用量の推移」のうち、木材チップの利用量を都道府県別に（中部）推移を示したのが以下の図です。

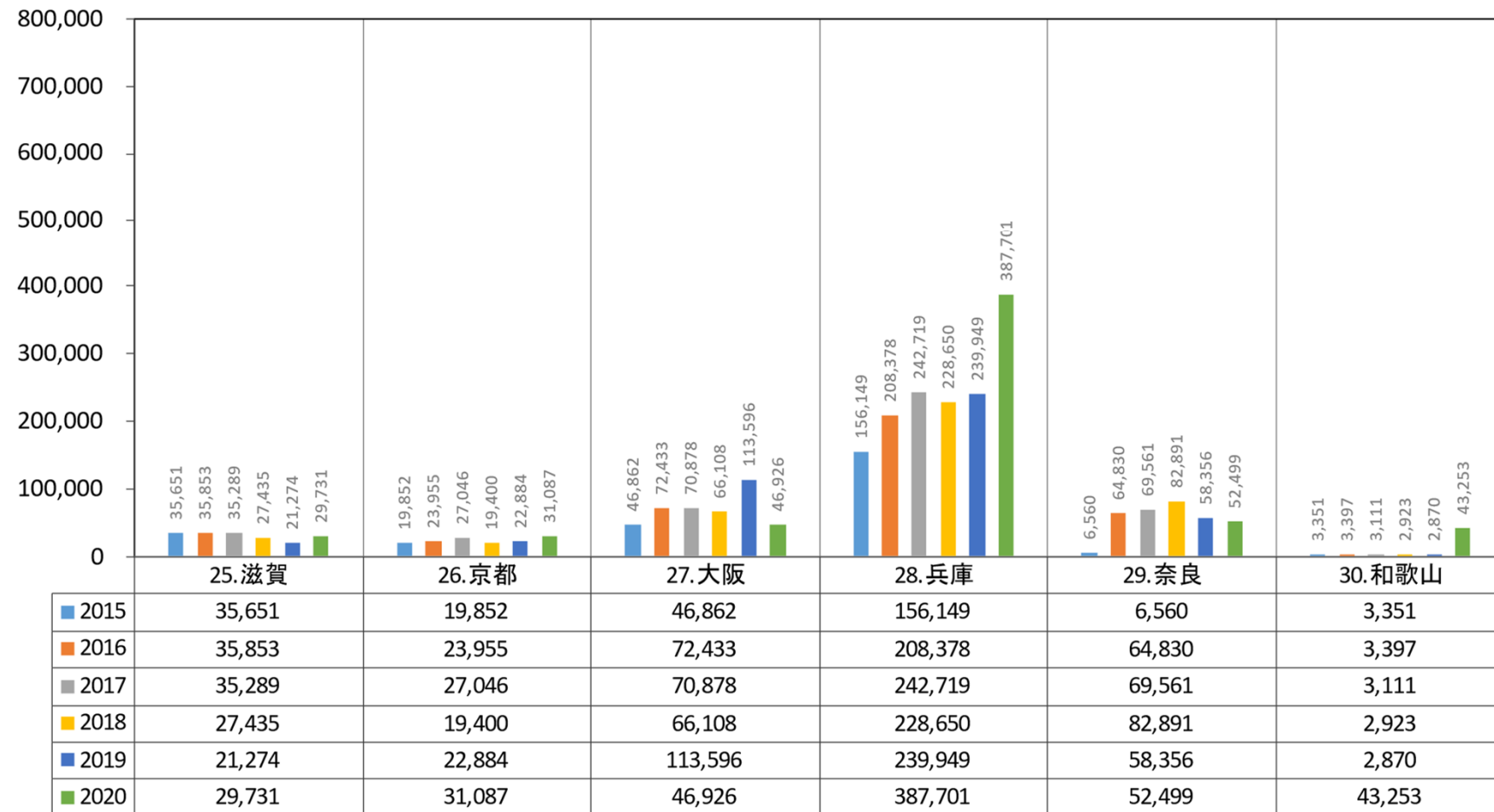
利用量（絶乾トン）



2-5. 木材チップ利用量の推移（近畿地方）

- 「2. 木質バイオマス利用量の推移」のうち、木材チップの利用量を都道府県別に（近畿）推移を示したのが以下の図です。

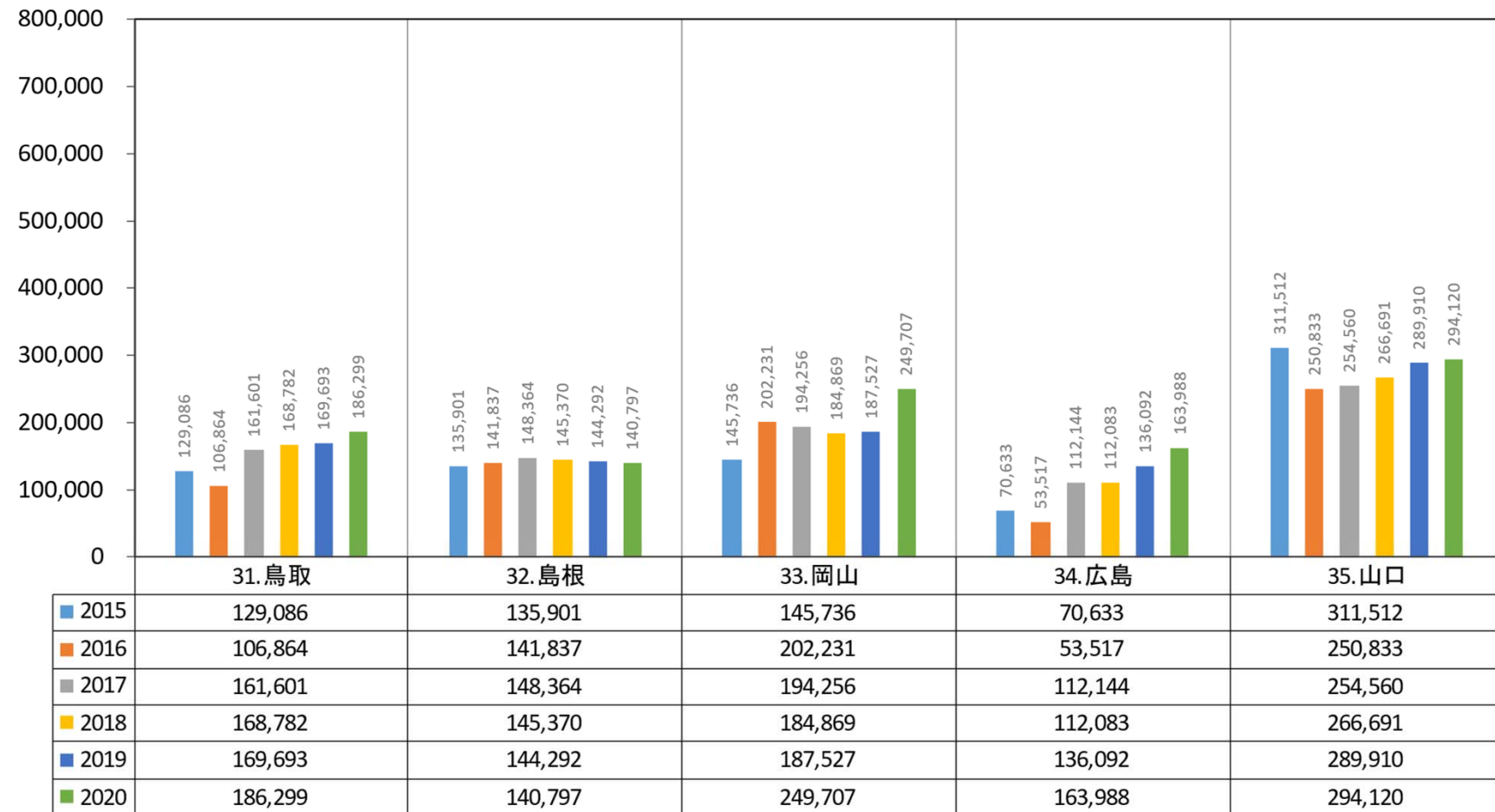
利用量（絶乾トン）



2-6. 木材チップ利用量の推移（中国地方）

- 「2. 木質バイオマス利用量の推移」のうち、木材チップの利用量を都道府県別に（中国）推移を示したのが以下の図です。

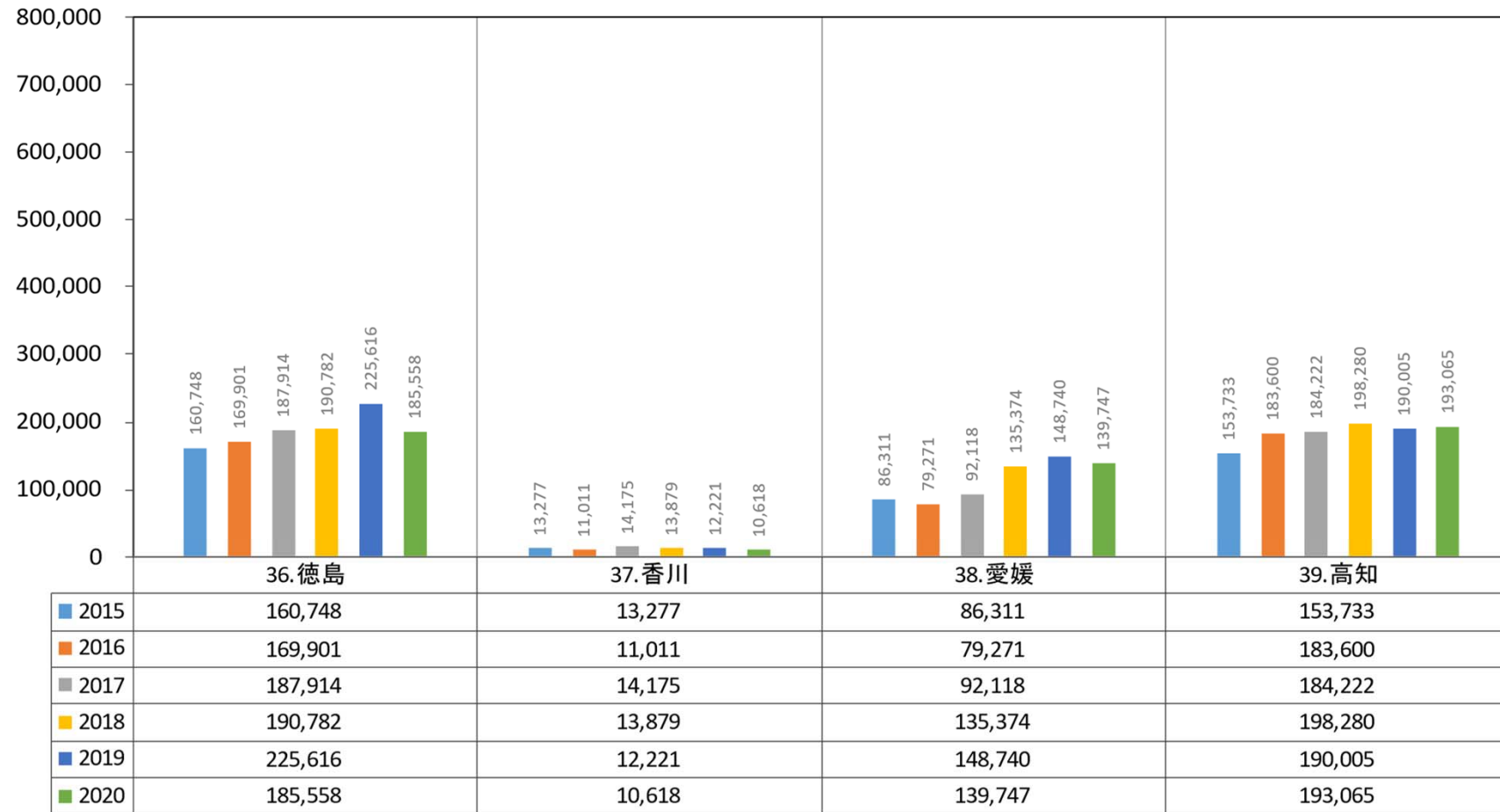
利用量（絶乾トン）



2-7. 木材チップ利用量の推移（四国地方）

- 「2. 木質バイオマス利用量の推移」のうち、木材チップの利用量を都道府県別に（四国）推移を示したのが以下の図です。

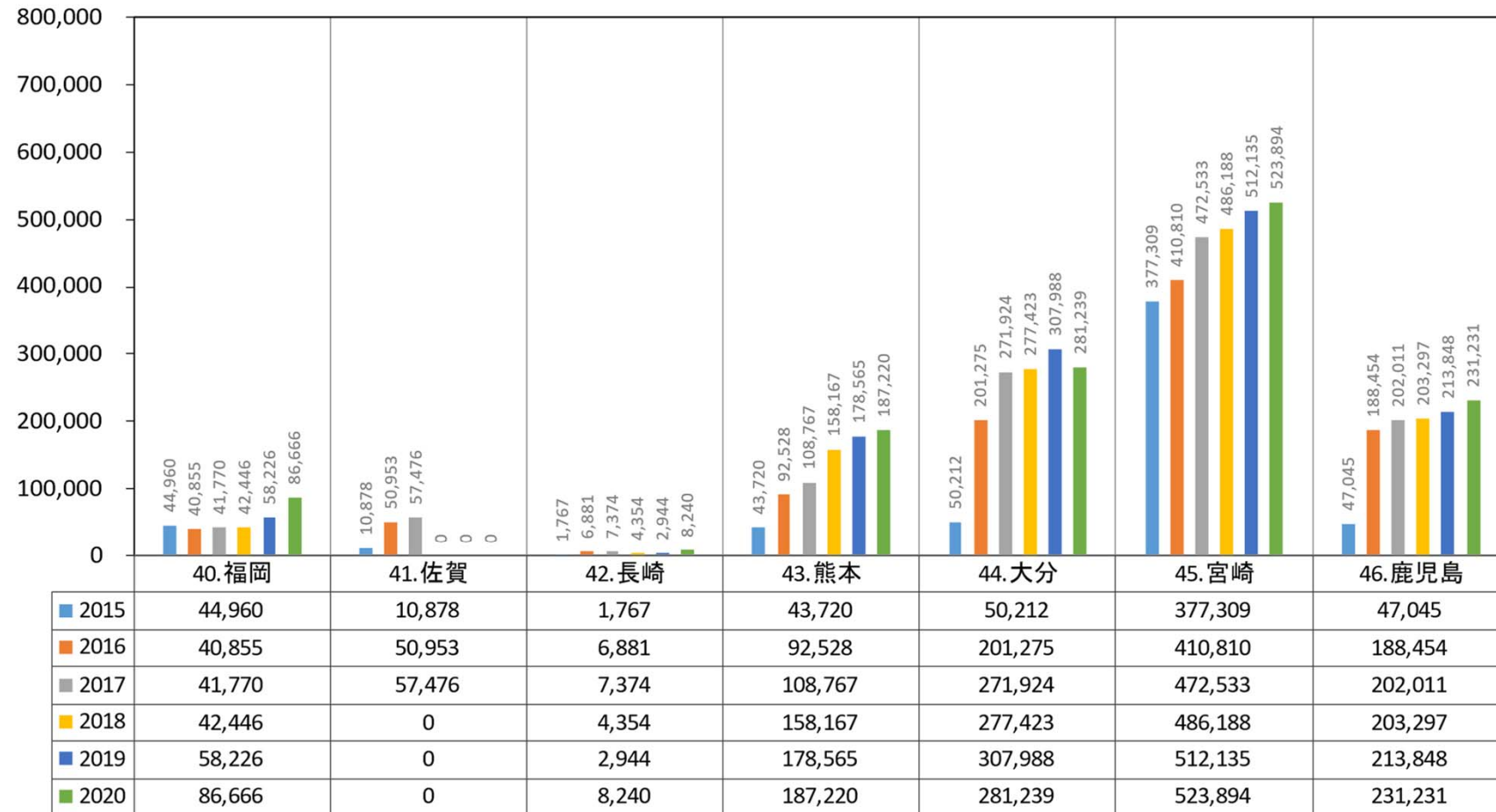
利用量（絶乾トン）



2-9. 木材チップ利用量の推移（九州地方）

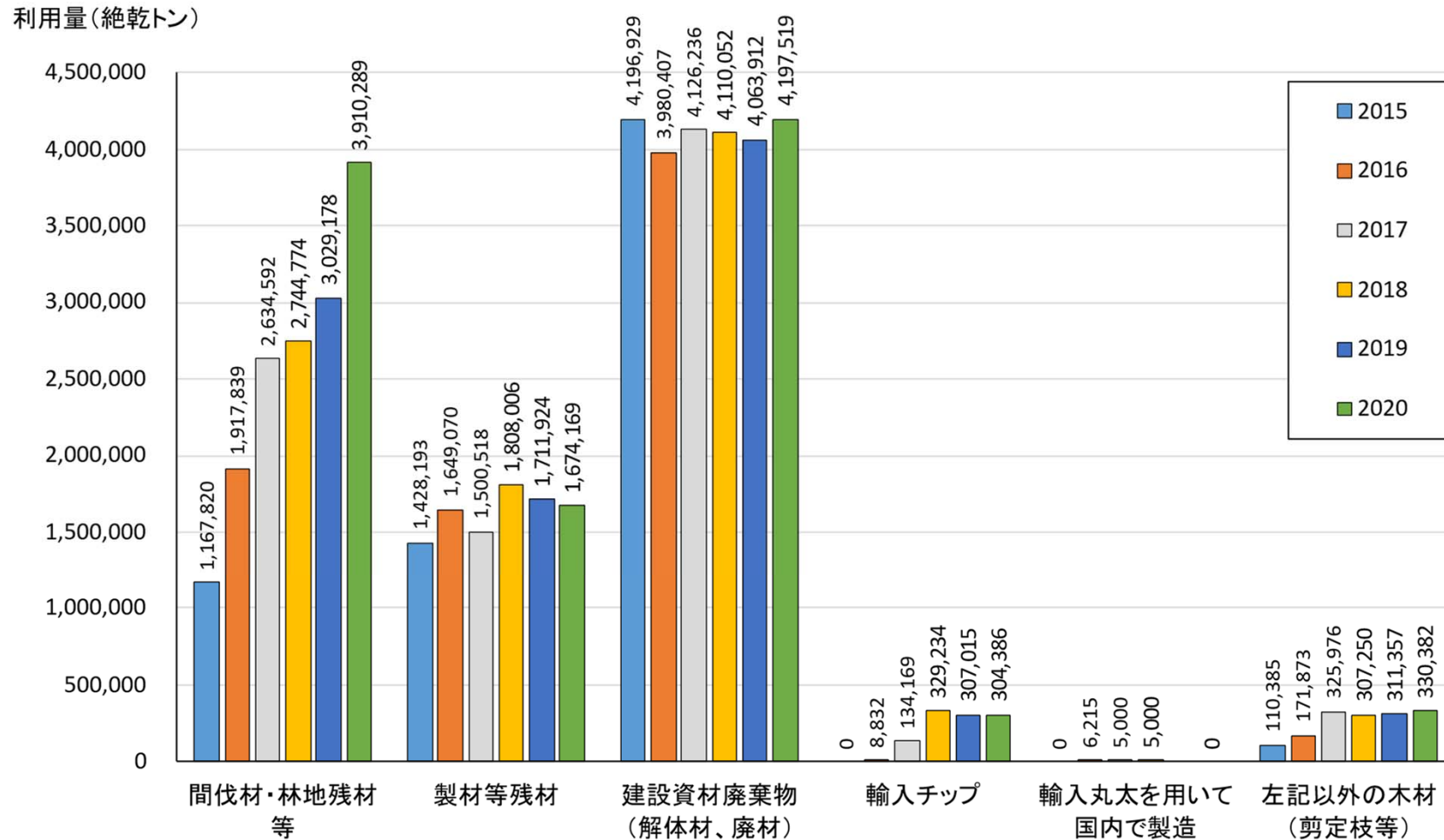
- 「2. 木質バイオマス利用量の推移」のうち、木材チップの利用量を都道府県別に（九州）推移を示したのが以下の図です。※佐賀県は2018年から公表対象外になっています。

利用量（絶乾トン）



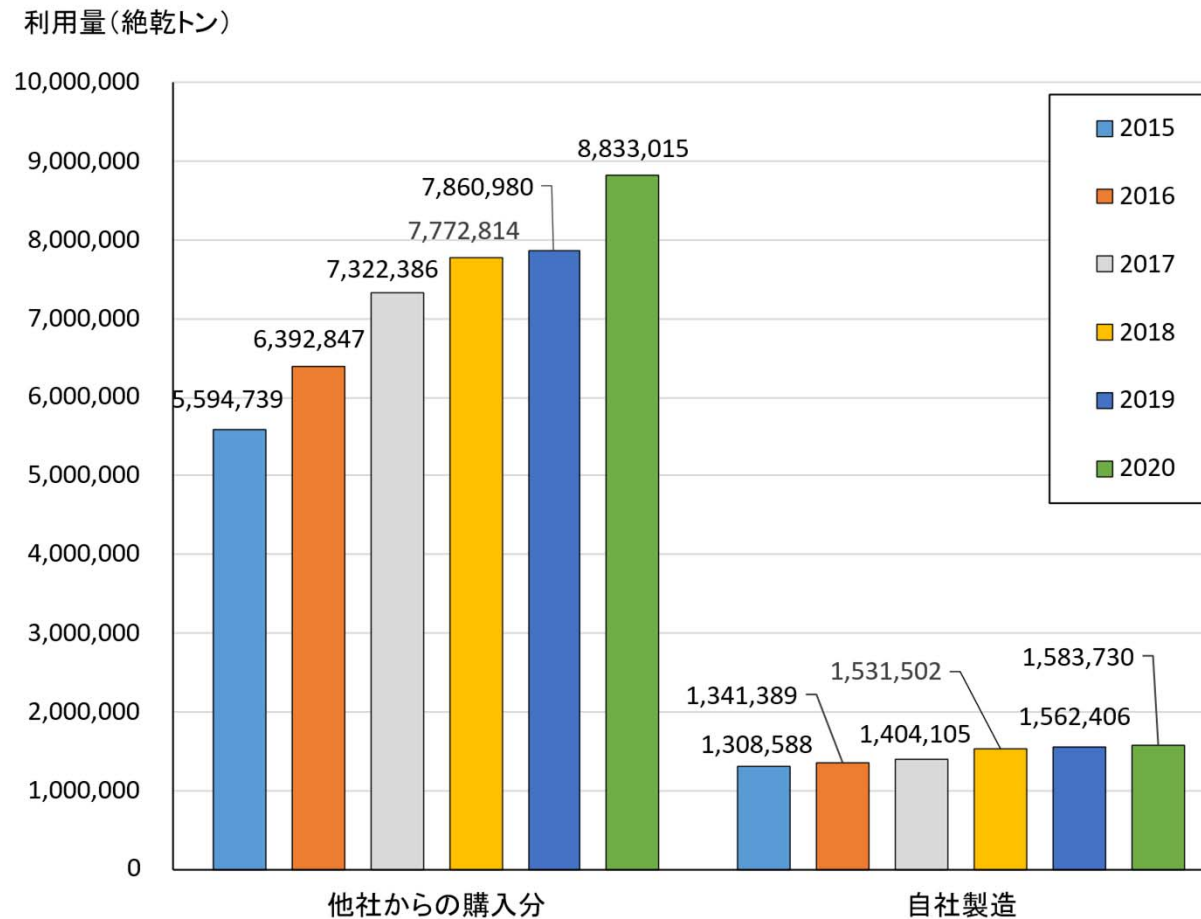
3. 木質バイオマスのうち、由来別木材チップ利用量の推移（全国）

- 「2. 木質バイオマス利用量の推移」のうち、木材チップの推移を由来別に比較すると、間伐材・林地残材は増加傾向で、それ以外のバイオマス利用量は横ばい傾向です。



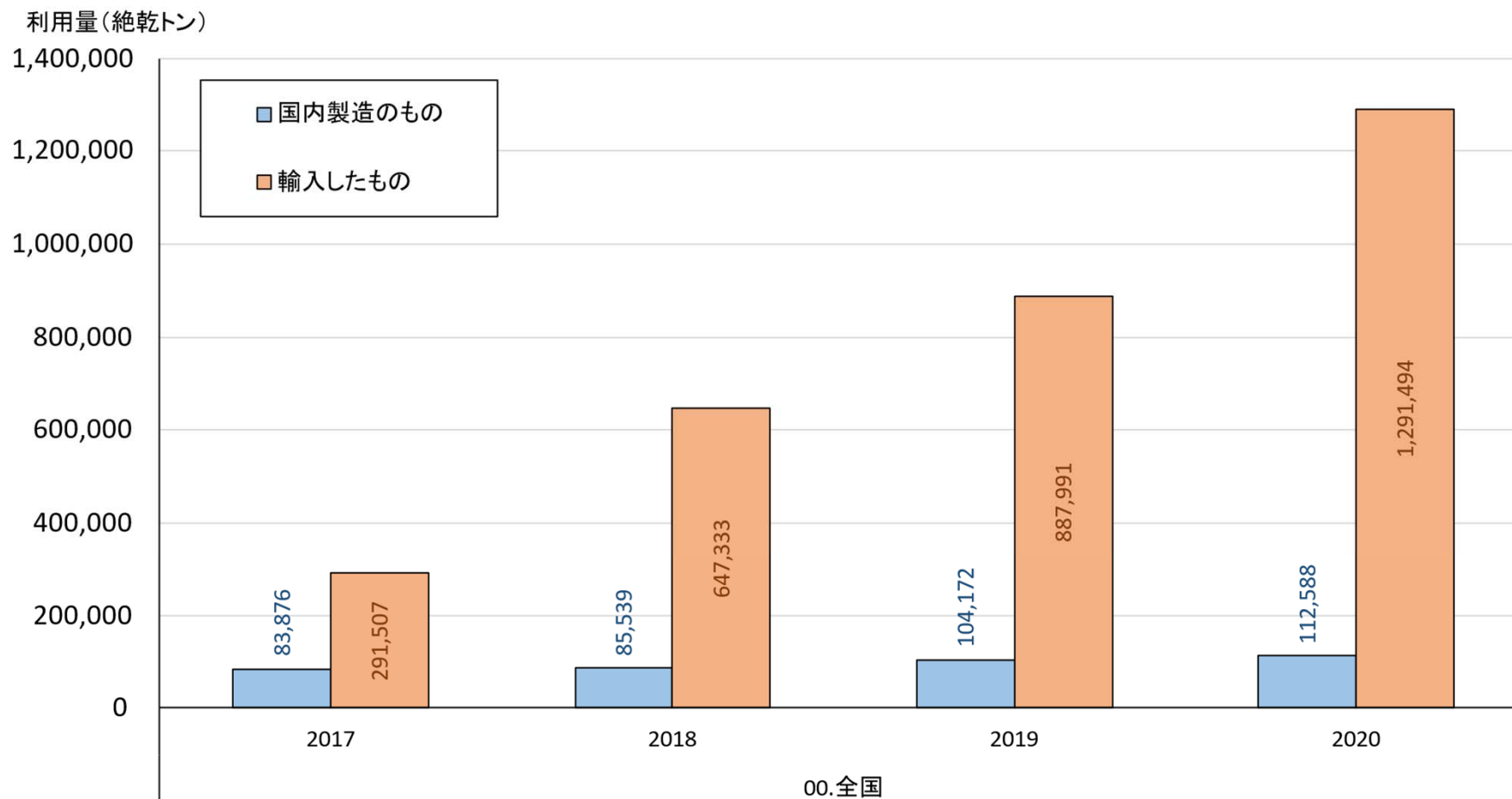
4.木材チップの他社購入、自社製造別の利用量（全国）

- 木材チップの「他社購入」「自社購入」の推移は以下のグラフのようになります。



5.木質ペレットの利用量の推移（全国）

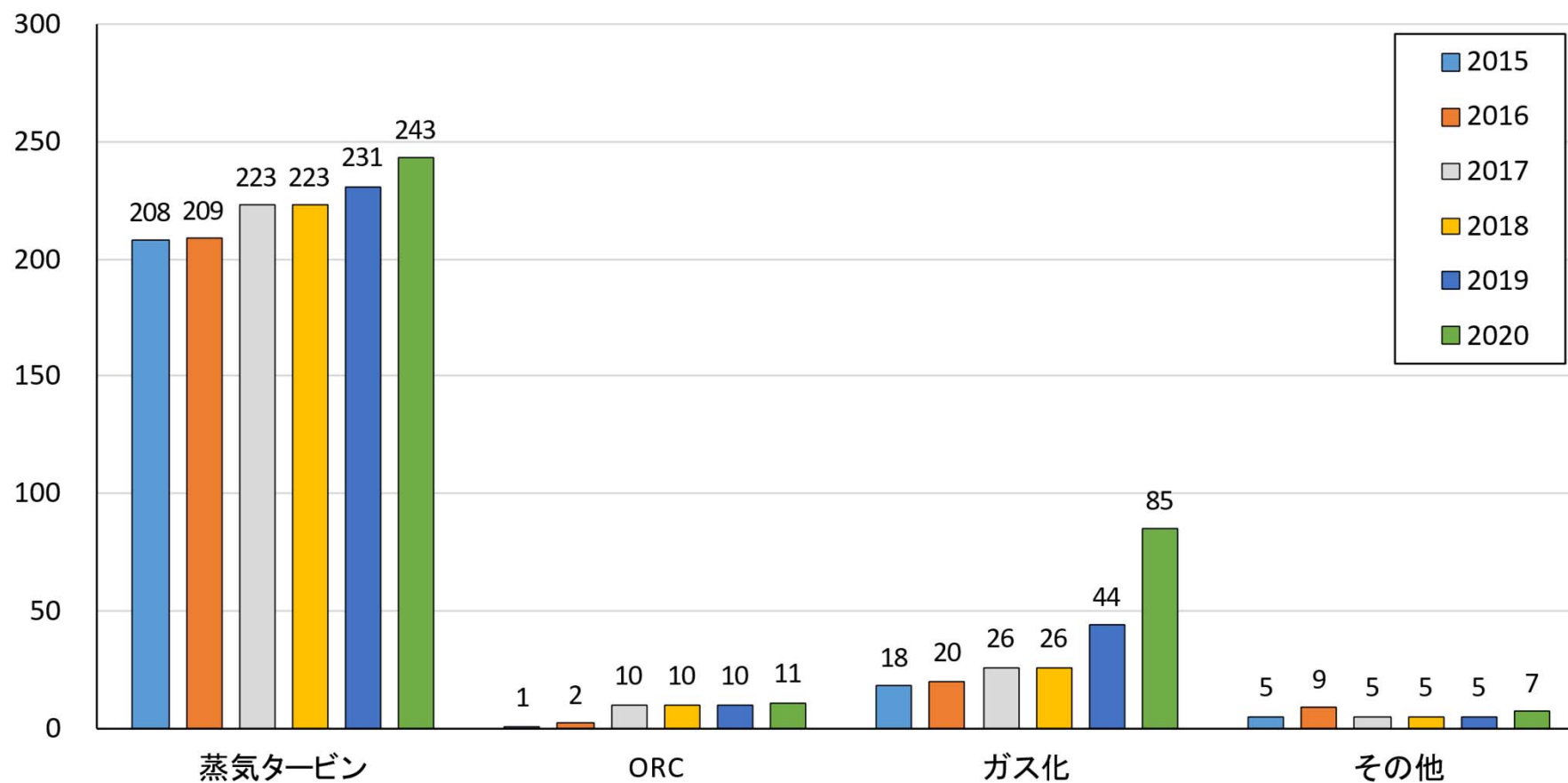
- 「2. 木質バイオマス利用量の推移」のうち、木質ペレットの国内製造・輸入別利用量の推移を示したのが以下のグラフになります。



6.種類別発電機数（全国）

- 種類別発電機数の推移は、以下のグラフのようになります。2020年は蒸気タービンおよびガス化発電機数の伸びが大きく、それ以外は横ばい傾向にあります。

発電機数(基)

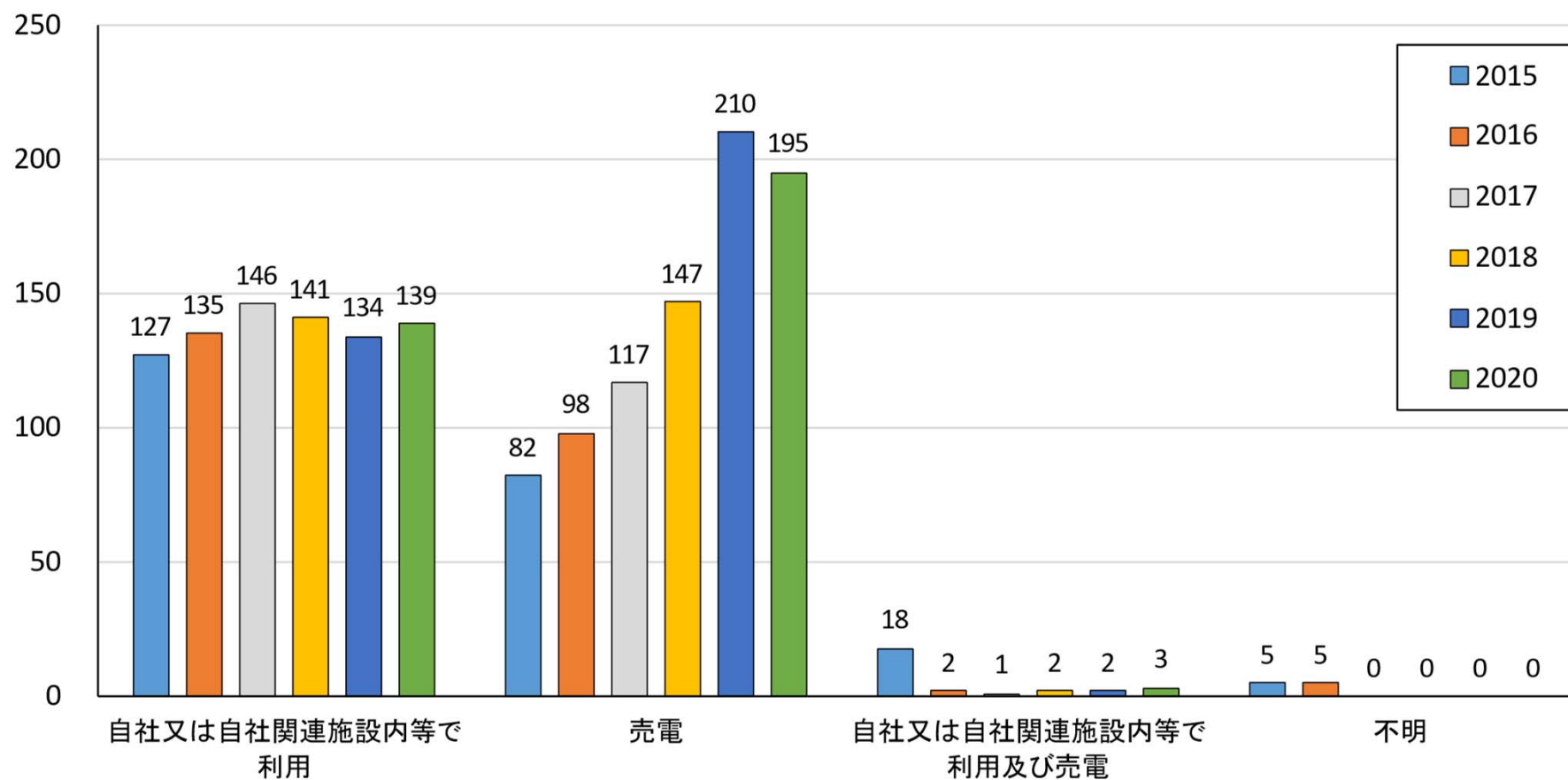


ORC=オーガニック・ランキン・サイクル

7.電気の用途別発電機数（全国）

- 電気の用途別発電機数の推移は、以下のグラフのようになります。これまで伸び率の大きかった売電目的の発電機数は、2020年は減少に転じています。

発電機数(基)



8.補助金等活用数（全国）

- 補助金等活用数の推移は、以下のグラフのようになります。

発電機数(基)

